

結核性肺空洞ノ觀察特ニ豫後ニ就テ

傷痍軍人石川療養所(所長 日置陸奥夫)

園 部 昌 俊

Masatoshi Sonobe

(昭和16年7月7日受附)

(本篇ハ去ル6月27日軍事保護院主催肺空洞研究會ニ之ヲ發表セルモノデアル)

内 容 抄 録

開所以來滿2ケ年ニ渉ル空洞所有者ニ關スル一般觀察ヲナシ、特ニソノ豫後ヲ追究セルモノデアル。

目 次

緒 言	第5項 空洞ト咯血
第1項 平面撮影ニ依ル空洞ノ發見率	第6項 豫 後
第2項 空洞ト菌喀出トノ關係	第7項 肺空洞ノ今後ノ處置ニ關スル考察
第3項 空洞ノ大イサ	文 獻
第4項 空洞ノ部位ト病期	

緒 言

本報告ハ收容患者ノ特殊性ニ依リ男性ノミヲ對象トシ且年齢モ青壯年ニ限ラレタルガ故ニ空洞ニ關スル一般統計事項ハ成可ク之ヲ省略シ今日ノ療養指針ニ依リ如何ニ之等空洞患者ノ豫

後ガ支配セラル、カニ主ナル觀點ヲ置イタ。患者ヲ比較的長時間ニ渉リ收容觀察ノ機會ニ恵マレタル所ノ成績ハ種々ノ意味ニ於テ參考トナリ得ルコトモ寡クナイト信ゼラレル。

第1項 平面撮影ニ依ル空洞ノ發見率

空洞ノ發見率ハ其ノ摘發方法ニ依リテ成績ヲ異ニスル。本報告デハ單ナル平面撮影ニ依ルモノデ、1.5米ノ距離ニ於テ施行セラレタルコトハ後ニ空洞ノ大サヲ論ズル際ニ留意セラレナケレバナラナイ。

本療養所ニ於ケル今日迄ノ取扱數ハ〇〇〇名デ、中74名ガ空洞保持者デアル。

然シ乍ラ取扱總數ニ對スル率ノ多寡ハ患者ノ種類ニ依ル事デ學的ニ多クノ意義ハナイ。

私ハ寧ロ凡テノ結核菌喀出者ニ對スル率ヲ求めテ見タ。結核菌ノ排泄ニ關シテハ無論顯微鏡検査ノミナラズ、培養方法ヲ同時ニ行ハネバラヌ。此際極メテ少數ニ存シタ純血行播種ハ數量的ニ問題ニナラヌ。

結果トシテ綿密ニ喀痰検査ヲ行ヒ得、且、陽性成績ヲ得タルモノハ 369 名ヲ數ヘタカラ此中

空洞ヲ明カニ認メシメタルモノハ 20.0%ニ達シタ譯デアアル。

第 2 項 空洞ト菌喀出トノ關係

上述ノ如ク空洞ハ菌ヲ排泄スルモノノ約 2 割ニ認メラレタガ、之ニハ空洞ヲ證明スルモノハ必ズ菌ヲ喀出スルモノニ屬スルト云フ前提ガ含まレテキルワケデアアル。此點ハ勿論詳シク實證サレナケレバナラス。

空洞保持者 74 名中顯微鏡検査ニテ既ニ陽性ナリシモノハ 55 名、更ニ培養ヲ施行シテ陽性ナルヲ認メタモノハ 16 例、其ノ結果空洞ト菌喀出ノ一致率ハ 97.2%ト云フコトナル。

陰性者 3 名ニ就テ更ニ深く検討シテ見ルト、内○例、岡○例ハ空洞ガ認メラレタ期間ニハ單ニ檢鏡ノミヲ行ツタノデ、培養法ハ空洞ヲ認メナクナツテカラ行ハレタモノデアアル。殘ル 1 例深○ハ偽空洞ニ屬スルカモ知レナイと思ハレルモノデアアル。勿論空洞ニ於テ治療ヲ加ヘラレタモノハ陰性ニ轉化スルモノガアルガ、本項デハ治療以前ノ結果ヲノミ取扱ツタモノデアアル。

從ツテ結局空洞ガ存スル限り全部菌ヲ排出ス

ルモノデ、從來多數諸家ニ依リテ 80—90%等ト稱スルハ菌ノ證明法ニ充分ヲ缺イタカラデアラウ。

猶何故同ジ空洞ニ於テ反覆検査スルモ顯微鏡的ニ陰性デアリ、培養ニ依ツテ陽性タリ得ルカハ速カニ明瞭デナイ。「レントゲン」像ノミカラ判定スルナラバ之等ノモノノ殆ンド多クハ、空洞ノ周圍ニ厚イ壁ヲ認メ得ルカノ如ク感ゼラル。

空洞ヲ有スルモノハ故ニ必ズ社會衛生的ニ危險ナルモノニ屬スルガ、此逆ハ必シモ眞デナイ。社會衛生的ニ考慮ヲ要スルモノハ凡テノ活動性肺結核症デアツテ、從ツテ空洞ヲ處理スルコトガ若シ可能デアルトシテモ夫ノミデハ豫防ノ一面ヲ解決スルニ過ギナイ（勿論本論ハ寫眞上明カニ識別セラル、空洞ヲ空洞トシテ取扱ツタモノデ更ニ小ナルモノヲモ凡テ空洞ハ空洞トシテ取扱フナラバ別ノ結論ガ生レル）。

第 3 項 空洞ノ大イサ

空洞全個數ヲ採リ其ノ大イサニ就テ度數分布ヲ記載スルモノハ第 1 表デアアル。尤モ寫眞上認メラレタル投影像ガ直チニ實大デアルト云フコトハ到底云ヘナイガ、本項デハ 1.5 米距離ニ於テ撮影セル平面寫眞像ニ就テ假リニ之ヲ行ツタニ過ギナイ。尙空洞ノ徑ハ其ノ最大長ヲ以テ之ヲ表シタ。表ニ於テ之ヲ案ズルニ、2.0—2.5 糎ガ最モ多ク、1.5—2.0 糎之ニ次ギ次イデ 1.0—1.5 糎、2.5—3.0 糎、0.5—1.0 糎ノ順位ニアツタ。3.0 糎迄ノモノガ大多數ヲ占メタ。此成績ハ多數諸家ノ夫ニ大體一致スルモノデアアル。

此項ハ空洞ノ處置ニ對シテ參考トナルモノデアアル。

第 1 表 空洞ノ大イサ

空洞最大長徑	例數
0.5—1.0	12
1.0—1.5	20
1.5—2.0	26
2.0—2.5	32
2.5—3.0	20
3.0—3.5	8
3.5—4.0	4
4.0—4.5	6
4.5—5.0	4
5.0—5.5	1
5.5—6.0	1
計	134

第4項 空洞ノ部位ト病期

私ハ發見セル空洞ヲ其ノ發生部位ニ就テ分類シタ。肺野ノ區分ハ Gräff, Gonnermann, 伊藤等ニ從ツタ。空洞ノ發生部位ニ關スル統計的觀察ハ既ニ多數諸家ニ依ツテ爲サレ、夫レ夫レ多少ノ意見ノ相違ガ認メラレル様デアアルガ、我々モコノ成績デハ先ヅ左右ニ於テ大差ナク、其他各區分ニ從ヒ各頻度ヲ觀察スルニ左右中野ハ何分ニモ其ノ面積最モ多キガ故ニ從ツテ空洞數最モ多數ヲ占メテ居ル。左右ニ差ヲ認メナイ。左右ノ肺上野ガ之ニ次グガ、其ノ面積ノ小ナルニ比スレバ却ツテ密デアアルト云ハザルヲ得ナイ。肺尖部、肺下野ニ於テハ左右共著シク尠イ。斯様ニ區分シタガ大體ヲ通ジテ大多數ノモノハ左右共肺上葉而モ肺門ニ遠ク存スルモノノ様ニ見エル。

被檢材料ノ殆ンド全數ハ所謂進行セル時期ニ相當シ、所謂早期浸潤ノ軟化セリト思ハル、モノハ極メテ少數ニ屬シタ。強ヒテ之ヲ求ムレバ74例中僅カニ2例ニ於テ鎖骨下浸潤ニ屬シ、他ノ2例ニ於テ獨リ肺尖部ニ空洞症狀ノミヲ主トシテ認メタ。

同一人ニ於ケル空洞ノ個數ニ關シテハ第2表ノ如クデアアル。要スルニ1個存スル場合ガ最モ多イ。發生スル空洞ノ個數ニ關シテ表揚ノ通り左右全ク機會均等デアアル。

此項ニ於ケル考察ハ傷痍軍人療養所ニ於ケル收容患者ノ性質ヲ知ルニ主トシテ役立つモノデアアル。

即チ早期浸潤以外ニ屬スル此等ノ多クノ者ハ治癒ノ傾向ノヨリ寡イモノニ依ツテ占メラレテ居ルコトヲ記憶セネバナラス。

第2表 肺野ニ於ケル空洞發生數

群別	左右別		計	
	空洞數			
1	1個存スル場合	21 (28.4)	17 (23.0)	38 (51.4)
2	同側ニ2個存スル場合	7 (9.5)	7 (9.5)	14 (18.9)
3	同側ニ3個存スル場合	4 (5.4)	5 (6.8)	9 (12.2)
4	兩側各々1個存スル場合			8 (10.8)
5	兩側數不同ノ場合			5 (6.8)
	總計	32 (43.2)	29 (39.2)	74 (100)

第5項 空洞ト咯血

空洞ヲ認メタル者ニ於テ咯血ヲ來シタルモノハ意外ニ寡ク74例中15例デアツタ。殘ル59例ニ於テ何等咯血ヲ認メテ居ナイガ中9名ハ既往ニ咯血アツタコトガアル。

4例ニ於テ入所後新ニ空洞發生ヲ見タ。孰レ

モ其ノ當時咯血ヲ伴ハナイ。

3例ノミ咯血死ニ終ツテキルガ咯血ニ關スル限り空洞ハ豫後ニ於テ甚シイ危險ヲ伴ツテキナイ。

第6項 豫後

空洞ヲ發生シ、又其ノ傾向ニ伴フ進行性結核ノ豫後ガ極メテ憂フベキデアアルト云フコトハ贅言ヲ要シナイ。74例ノ中既ニ死ノ轉歸ヲトリタルモノ21例ヲ算スル。而シテ此中結核死ニ終レルモノ、即チ死ノ直接原因トナリタルモノハ漸ク3例デアアル。空洞發生以來死ニ至ル期間ニ關シテハ何分材料ノ關係上殆ンド全例ニ於テ明瞭

デナイガ其ノ明デアツタ3例ニ關シテハ次ノ如クデアアル。第1エ○例ハ空洞發生以來約半月、但シ之ハ糖尿病ヲ有シタ。第2大○例ハ約4ヶ月、死因ハ血行播種ラシク思ハレル。第3濱○例ハ約15ヶ月、死因不詳。

觀察中ノ53例中入所後日淺キ7名ヲ除キ、46名ニ關スル現狀ヲ尋ヌルニ、18例ハ所謂進行性

結核=屬シテ空洞ト同時=廣汎=結節影像ヲ認メ而モ經過不變ナモノ=屬シタ。

斯ノ如キ状態=於テ其儘=放置シテ稍々好轉スルト思ハレル例5, 甚シク好轉セルモノ6例數ヘタ。輕快セル5例ハ孰レモ1ヶ年乃至2ヶ年經過ノ後其ノ著シキ縮少乃至殆ンド消失ヲ經驗シタ。然シ乍ラ斯ノ如キモノ=於テ或ハ1ツノ空洞ガ消失シテモ他側=出現スルトカ云フ事ガアツテ菌ノ消失ハ仲々容易デナイ。甚シク好轉セル6例ノ中2例ハ大ナル空洞ソレ自身ノ消失ヲ認メタモノデアアルガ, 肺所見ソレ自身ノ變化ハ依然好轉ヲ見ズ, 喀痰中=菌ヲ發見スルモノデアアル。他ノ4例ハ空洞ノ消失ト共=肺所見ノ著シイ改善ヲ認メ, 中3例ハ確實=菌ノ排出ヲ見ナイ。

此等ノモノノ外=空洞=對シテ若クハ之ト共=其ノ浸潤=對シ, 適應ヲ見出し得ル限り, 人工氣胸ヲ施シタモノガ10例アル。中3例空洞ノ

消失, 浸潤ノ消褪ト共=喀痰中菌ノ存在ヲ證明シ得ナクナツタ。他ノ3例ハ觀察中デアアル。更=1例ハ癒着ヲ生ジ氣胸中止ノ止ムナキニ至リ, 他ノ1例ハ空洞ハ消失シタガ他側ノ浸潤ヲ大ナラシメタ。

2例ハ氣胸中事情アツテ退所シ觀察ヲ續行シ得ナクナツタ。

空洞ヲ有スル患者=對シテ, 横隔膜神經捻除術ヲ行ツタノガ7例有ル。中3例=於テ空洞ノ殆ンド消失ヲ證明シ得タ(但シ1例ハ鎖骨下浸潤)孰レモ横隔膜ノ効果的ナ舉上ヲ見タモノデアアル。但シ結核菌ノ存在ハ早期浸潤1例ヲ除キ依然之ヲ認ム。横隔膜ノ舉上ガアツタ=不拘他ノ1例デハ空洞ノ消失ガナク1例ハ其ノ舉上ヲ認メ得ザルト共=同ジク効果ヲ招來セシメ得ナクナツタ。肺所見カラ推スト相當癒着ガアルラシイ, 他ノ1例ハ目下觀察中デアアル。以上ヲ表掲スレバ第3表ノ通りデアアル。

第 3 表

處 置	豫	後	例 數	
放 置	不 變		18	
	一側空洞消失スルモ他側=新タ=生ズ		5	
	空洞消失	肺 所 見 不 變		2
		全身徵候共=良シ	喀 痰 有 菌	1
			喀痰無菌トナル	③
人工氣胸	空洞消失	惡 化	1	
		改 善 無 菌	③	
	觀 察 中		3	
	中 止 (癒 着, 退 所)		3	
横 隔 膜 神 經 捻 除	空洞消失	喀 痰 有 菌	2	
		喀痰無菌トナル	①	
	空 洞 消 失 セ ズ		3	
	觀 察 中		1	
入 所 後 日 淺 キ モ ノ			7	
死 亡			21	
合 計			74	

第7項 肺空洞ノ今後ノ處置ニ關スル考察

既述ノ如ク此治癒傾向ノ少イ進行セル肺結核ノ空洞ニ於テ74例中3例ハ何等ノ處置ヲ施サナイデ、專ラ一般療養ニ依ツテ改善ヲ見タ。

人工氣胸ヲ施行シ得テ極メテ良好ナル成績ヲ得タモノガ3名、良カラウト思ハレルモノガ2名、横隔膜神經捻除術ヲ行ヒ得テ空洞ノ消失ヲ認ムルモノハ3例アツタ。其ノ孰レガ良カツタカニ關シテハ人工氣胸ヲナシ得タモノニ手ヲ擧ゲザルヲ得ナイ。後者ニ於テ空洞ノ消失ヲ見タモノデモ結核菌ノ喀出ハ依然トシテ存シ、其ノ消失ヲ見タ1例ハ寧ロ早期浸潤ニ屬シタガ故デアル。

大局ヨリ見ルナラバ處置ガ空洞ニ對シテ格別ノ成績ヲ擧ゲテキナイ様ニ見エルガ、之ハ夫レ夫レ適應ヲヨク選ブコトニ依ツテ成績ガ寧ロ倍加サレタト見ルノガ當ヲ得テ居ヤウ。若シサウトスレバ斯ノ如キ處置ガ今一層工夫セラレ方法

ガ豊富ニナルコトガ勿論望マシイ。能ク考ヘルト人工氣胸術ニヨツテ、又自然ノ成行ニ依ツテ成績ノ良カツタモノハ、空洞ノ消失ト同時ニ相竝ンデ其他ノ肺所見ノ改善ヲ見タモノデ豫防上餘リニ空洞(肉眼的又ハ撮影上ノ)ヲノミ對象トスルコトハ近視眼的の誹リヲ免レナイト思フ。

尤モ空洞ヲ消失セシムルコトガ疾病ノ經過ヲ遷延セシメ、二次的ニ一般状態ヲ恢復セシムルコトハ無論アリ得ベク、之ニ向ツテノ努力ヲ惜ンデハナラナイト思フ。

此意味ニ於テ進行セル結核ト雖モ徒ニ之ヲ放置セズシテ處置ヲ施スコトガ(本報告例デハ氣胸ノ外ノ特殊處置トシテ Phrenicoexhairese ガ行ハレタニ過ギナイガ) 尠クトモ患者ニ希望ヲ與ヘシムルモノデアル様ニ現在考ヘテ居ル。

摺筆スルニ臨ミ所長日置博士ノ御校閱ヲ謝シ奉ル。

文 獻

本論ノ文獻ハ大里内科教室田中溥之氏ノ空洞ノ研究ニ仰グモノデアル。據テ之ヲ記載スルコトヲ略シ、併セテ氏ノ研究ニ敬意ヲ捧ゲル。

田中溥之、十全會雜誌、43、2864、1938; 44、2121、1939; 44、2603、1939; 45、22、1940、45、291、1940;